

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

.サービスの成果に関する項目

【記入方法】

複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに管理者が介護職員と協議の上記入してください。

次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。

- 項目番号23 初期に築く本人との信頼関係
- 項目番号24 初期に築く家族との信頼関係
- 項目番号25 初期対応の見極めと支援
- 項目番号26 馴染みながらのサービス利用
- 項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援

次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。

- 項目番号53 身だしなみやおしゃれの支援
- 項目番号59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援
- 項目番号60 お金の所持や使うことの支援
- 項目番号61 日常的な外出支援
- 項目番号62 普段行けない場所への外出支援
- 項目番号63 電話や手紙の支援
- 項目番号64 家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

管理者 = 指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。

職員 = 「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名	グループホーム こころのさと
(ユニット名)	1階
記入者(管理者) 氏名	鈴木 美和
評価完了日	平成20年3月27日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>質の確保、サービスの向上への指針として職員全体で話し合い理念を掲げているが地域との関係性という点に対して事業所の意識は薄い。</p>	<p>全体ミーティングによる職員間での意見交換の際には「地域の中におけるグループホームの役割とは」をテーマに話し合いや再確認を繰り返すことで意識を高めていきたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>共有スペースに理念を掲げ、日々実践に向け取り組んでいるが、理念の再確認や話し合いの場は持っていない。</p>	<p>職員同士の理念の確認、話し合いを出来る場を積極的に持ち全体ミーティングで理念の再確認をし、より身近に感じられるよう意識づけしたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>見学の際には、理念にも注目して頂けるよう説明の中に組み込みグループホームの特性や役割への理解をより深められるよう配慮して行っている。</p>	<p>パンフレットへ組み込みたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>あいさつをさりげなく交わす自然な交流は年々深まってきているかと思われる。特定の近所の人には気軽に立ち寄って頂き、菓子やおかずを持参して下さり、お茶のみをするなどの間柄がある。</p>	<p>できれば、もっと幅を持ち交流の場を広げていきたいので、敬老会など地域の方との触れ合いを積み重ねホームの存在を地域に深めていきたい。交流が深まってきたらお茶会などを催していきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>敬老会でのバザーや模擬店、ボランティアの受け入れ、地域公開活動などの機会を定期的に設けている。</p>	<p>ホームから地域に出ていく機会がない為、事業所が積極的に地域へ出て、地域を知る機会を設けていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	小学生の社会見学、高校生の就業体験、ヘルパーの養成実習など積極的に受け入れている。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	自己評価、外部評価に対する意義への理解は年々深まってきている。自己評価は職員一人一人が行い外部評価後のミーティングにおいて意見交換を行っている。	評価や検討した内容の振り返りが定着していない為、継続的に検討会を行っていきたい。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	月1回の全体ミーティングや各ユニット毎のミーティングの際に意見交換や情報の共有に努めている。メンバーからは率直な意見を頂き参考とさせて頂いている。	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	サービス提供にあたっての疑問点や不安材料は、どんどん質問し一緒に考えて頂きグループホームゆえに抱える問題提起を行っている。	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	必要な方へは支援行ったケースがあるが症例が少なく、職員全体の理解を低い。	勉強会を開催して理解を深めていきたい。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	虐待防止を念頭に置き虐待のないケア提供に努めている。	日々進歩する虐待防止への定義に対して理解を深めていくために研修参加の機会を設け勉強会を開催したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書に基づき不安点や疑問点を確認しながら十分な時間をとりながら行っている。ホームでの限界性も提示しながら意見を頂いている。</p>	<p>看取りの指針がやや曖昧であり家族、本人の安心できる暮らし作りを強化していきたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>人と人との関わりを大切に、第2の家族と思って頂けるような関係が築けるよう理念に掲げ、利用者と職員の意見がどちらも一方通行にならないよう意見交換に努めている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>金銭管理は毎月の請求明細書に出納表を同封し確認の印を頂いている。面会時には近状報告を行い家族の近状も伺う機会を設けている。遠方のご家族には写真入りの葉書を送り近状報告を行っている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に苦情ポストを設置している。家族要望、不満、苦情があった際は職員間での情報交換に努めている。</p>	<p>家族の満足感を図るための関わりを継続的かつ積極的に取組んでいきたい。苦情への対応で終わりではなく、苦情の発生要因を探り、課題を検討し、質の向上を目指したい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回の合同ミーティングや不定期に理事長を交えた総会を行っているが、個別に意見を聴取する機会が定期的に行っていない。</p>	<p>定期的な話し合いの機会を設け、個別面談なども必要に応じて行い、課題を共有し、目標を明確にしていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況に応じた体制で行っているが、どこかにしわ寄せが起こるような余裕のない現状にある。</p>	<p>介護離れの波が色濃い社会的な問題に対して魅力のある現場となるための土台作りを、運営者を始めとして話し合い方針を固めていく必要があると思われる。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的には各ユニットの職員は固定としている。人員不足による応援職員の出入りにより利用者が戸惑いを感じる部分に関しては職員間での配慮を心掛けている。</p>	<p>離職率の高かった本年度を振り返り課題点と感じられる事に関して継続的な対応策を検討していきたい。新人職員の教育システムも確立していきたい。</p>
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>グループホーム連絡協議会に加入し、定期的に研修会に参加し報告会を行っている。職員へ配布する資料作成も報告職員が主体的に行っている。ホーム内では勉強会委員が定期的にテーマを決めて勉強会を開催している。</p>	<p>ホーム独自の新人育成マニュアルの作成、勤務年数に応じての達成目標と育成状況の確認が出来るようなマニュアルの作成を行い、育てるための指針作りに努め、実践していきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>交流は研修会が主である。</p>	<p>当施設において様々な施設の職員が会して意見交換や勉強会を定期的に行う計画があり積極的な参加や自主性を促していきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休憩は利用者や離れた場所を確保している。人員不足の問題や認知症高齢者との関わり、職場内での人間関係などストレスは消化するよりも募るほうが多いと思われる。各職員の話しをこまめに聞き職員間の人間関係、疲労、ストレス等の把握に努めている。</p>	<p>ストレス発散の場の提供は出来ていない為、作るように努めていきたい。何にストレスを感じ、何に不安を抱くのかは個々様々である為、それぞれの心の余裕を持つために何が求められるのかを常に考え、話し合いの機会を今後も設けていきたい。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>個人個人が自己のスキルアップの為に努力することで明確な形になり報われ、充実感を感じ得られるような職場環境ではない為、マンネリ化も生じやすい。資格取得へのメリットが職場環境の側面からも浮き彫りになるような職員へのバックアップ体制は必要と思われる。</p>	<p>個人の能力、勤務態度、取組への姿勢などを把握する体制を作るなど『やる気』へつながるような職場環境作りを運営者へ投げかけ協議を重ねていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者様から教えて頂くこともあり、共に協力しあい行うことで共に支え合うような関係作りや場面作り、声かけを行っている。</p>	<p>利用者の思いを共感し理解しあい、得意分野で力を発揮して頂いている。今後、更に感謝しあう関係性を築き、共に暮らすものとして、共感・理解を深めていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の現状理解や受容の為、定期的な報告や必要時に家族カンファレンスを開催し、可能であれば受診の付き添いや行事参加、外出付き添い等を促している。特にターミナル期においては、ご家族の意向やお互いの限界性を確認し、ホームの意向も率直にお伝えしている。		家族、ホーム、両者の意見のやりとりも大切であるが一番大切であるのは利用者本人の思いであるということを伝えている。ご家族の心情や家庭的な事情に照らし合わせ最後まで本人の思いがくみ取れるような支援体制を整えていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	誕生会や行事の際の写真つき葉書にコメントをつけ近状報告し郵送している。外出、外泊は家族より同意難しい部分もあり実施できていない利用者もいるが、行う際は生活の様子や対応のアドバイスなど文章にしてお渡しし不安の軽減に努めている。		行事参加が気軽になり家族も充実できる機会を増やしていきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方の家族、友人、知人には希望に応じて電話で話して頂き、馴染みの時計店や理髪店への外出支援を行っている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係と情報を全職員間で共有している。利用者同士の関係がうまくいくよう個別対応や仲介、トラブル回避等、注意深く見守り関わっている。共同作業でお互い認め合えるような機会作りを設けていきたい。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	取り組みは特にない。		行事に招待したり、遊びに来て頂く等の継続的なお付き合いが出来るよう、手紙を出すなどの関わりを検討していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で本人の言葉や表情などから探ったり、さりげなく尋ねたりしている。本人の要望が表出されない場合は家族からの情報を参考にしている。</p>	<p>本人が家族に対しての意向があっても何らかの事情にて思うようにならないことも多く、本人が納得をして生活できるような働きかけをご家族との連携をより深めて行っていきたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>センター方式による生活歴シートを活用している。シートの利用目的を説明したうえで直接、ご家族に記入して頂くなど協力を求めている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>出来ること、出来ないことに対しての見極めについて職員間で情報を共有している。ライフスタイルに合わせて見守りを重視し、出来る部分は積極的に声をかけている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の思いを優先し、ご家族の要望を添えたプランを立案し実行している。ご家族の要望を継続的にくみ取れていないケースもある。</p>	<p>ご家族の心情や状況の変化なども定期的に話し合うように努めていきたい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>個別ファイルに身体状況及び日々の暮らしの様子や言動、行動、エピソードなど生活面も詳しく記入し、状態像は掴み易くなっている。工夫や気づきは申し送りや連絡帳など活用して情報の共有に努めている。</p>	<p>ケアプランに添って実践されたかどうかの記入が時折抜けてしまうため、徹底していきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	2か月に一度のペースで老人福祉相談員の方々がレク活動をボランティアで行われており、学校の社会見学や体験学習も積極的に受け入れている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	要望に応じて訪問の理容サービスがある。2週に一度のペースでヤクルト屋さんの来所があり利用者の方々が選び購入されている。		運営推進会議において包括支援センターのケアマネージャーよりアドバイス頂き支援の参考としている。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に包括支援センターのケアマネージャーが参加されており周辺情報や課題対策など意見交換を深められるようになった。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医院への定期的通院介助を行っている。本人の症状や要望に添い、必要な医療機関の選択を行っている。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>物忘れ外来の通院は必要性を見極めて判断している。病気への知識や対応のアドバイスを頂きケアに活かしている。</p>		
45				
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時、支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞いに行き、家族、医療関係者との情報交換に努めている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居契約時に看取りの指針によりホームの方向性を提示している。</p>		<p>往診体制が整っておらず、ホーム内でどこまでの支援が可能であるかの不安は大きい。医療機関との連携強化を図りたい。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>職員の不安もある為、ミーティングを行い、出来ること、出来ないこと、不安なこと等を話し合う場を持ち、医師への相談やアドバイスと共に家族へのフォローを加え取り組んでいる。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	入居後のユニット間での移動や部屋替えは行っていない。環境変化による影響に配慮している。	
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	さりげない言葉かけや、その時々の利用者の気分の波や性格面を把握した上で対応行っているが親しさのあまりの慣れ合いが生じやすい。	馴染みの関係の中にも利用者主体であることや言葉かけへの配慮に対しての意識向上を職員間での話し合いでは継続的に振り返りや確認を行っていききたい。
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	衣服の選択や掃除場所など自分の考えで自由に発言できるような場面など納得がいくまで時間をかけて表出できるよう支援し、職員の意見を押し付けず必要に応じて複数の選択肢を提案し、自己決定の場面を作っている。	急かすことなく待つ姿勢を今後も心がけたい。
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	基本的な一日の流れは決まっているが時間を区切った過ごし方はしていない。一人一人のペースを守ることを心がけ、体調やその時の本人の気持ち尊重しているが時折、人員や業務上の都合で外出希望にそえない時もある。	利用者の要望が重なったり即対応が困難な場合においては、その旨をきちんと伝え納得のいくような対応には十分配慮している。たとえば今日行けない場合は後日何日に行くとの約束を交わしている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)</p>	希望者にヘアカラーを職員が行ったり、行きつけの床屋がある利用者は送迎を行っている。化粧や洋服のおしゃれ等、身だしなみにも気をつけ、自由におしゃれを楽しめるよう配慮している。	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者がホームの畑で収穫した旬の野菜を調理したり、各利用者の力量や意欲を把握した上で共に行い同テーブルで職員も一緒に食事をしている。</p>		<p>献立作成時、利用者の意見を聞いているが、今後も利用者の意思や気持ちを大切に、食を通した様々な取り組みを見直していきたい。地元の郷土料理がメインになってしまうが、他県に住んでいた方もおり、その方の生まれ育った地元の郷土料理なども組み入れていきたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>一人一人の嗜好を把握し、本人の希望に応じて行い、体重コントロールや医師からの制限がある際には工夫をして満足が得られるよう配慮している。又、喫煙コーナーも設けている。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>時間、回数、習慣を把握し、情報共有に努めている。パットや紙パンツが必要となれば数種類のサンプルにて本人の様子観察や感想を聞きながら協議を繰り返し決定している。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>利用者の希望に出来るだけ添えられるよう調整し、入浴中は見守りを兼ねて雑談しながら介助、支援を行っている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>睡眠の状況やパターンは情報の共有化とし把握している。不眠の有無、日中の疲労状況、座位時の体の傾き、表情、動作などの観察から必要に応じて休息を促し、気持ちの安定を図り、くつろげる場面を支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>得意分野で一人一人の力を発揮して頂けるよう配慮し、感謝の気持ちを伝え自信につなげている。自主性も見極め、自主性の元に生まれた役割を大切に見守り、支援を行っている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している(認知症対応型共同生活介護)	本人の要望や家族の協力を得て、自己管理できる人は小額を所持している。外出時やヤクルト屋さん訪問の際は自分の財布からお金を出して購入されている。		自己管理の出来ない方に対しては、職員見守りの上、支払いを行う機会など増やしていきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	本人の要望に添って対応したり、職員からも働きかけて外出、外食、散歩、買い物等、外へ出る機会を設けている。		訴えの多い方に対応の偏りが生じてしまうこともあり、全利用者に対して不公平が生じることなく支援を心がけていきたい。外出意欲の乏しい方への働きかけに工夫をこらし、継続していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	要望に応じて検討し、園外活動や個別対応に組み込みながら出来る限り気持ちに添えるよう支援している。		家族の協力が薄い方も多く家族と一緒に出かけられる機会は少ない現状もあり家族の協力要請に積極的に取組んでいきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	気兼ねなく要望に添って事務所の電話を使用してもらったり、個別に携帯電話を使用されている方もいる。遠方に限らず、家族へは職員が代筆した手紙や葉書を送っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している(認知症対応型共同生活介護)	遠方の家族が居室に泊まれるようなシステムがある。訪問者にはお茶を提供し、さりげなく近状報告を行い難聴の方や対応が難しい方には交流の橋渡しをおこなっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解して取り組んでいる。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中の居室の鍵はプライバシーや要望に応じて、本人にお任せしている。玄関に関しても夜間防犯対策の戸締り以外は施錠していない。</p>		
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>利用者と同じ空間で事務作業を行い、夜間は巡視以外にも動きが見えやすい場所にて見守りを行い安全面に配慮している。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>利用者の要望や必要性に応じて保管場所を決めたり、のれんで目隠しをするなどの生活感を失わないような工夫を行っている。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>ヒヤリハットの記載にて共有意識を図っている。危険性の高い要因へのリスクを共有し支援内容を検討している。</p>		<p>とっさの時でも慌てずに対応できるようシュミレーションを兼ねて勉強会を重ねていきたい。</p>
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>消防署の協力を得て勉強会を実施したが、いざというときへの不安は強い。</p>		<p>継続して勉強会をしていきたい。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署の協力を得て、避難訓練、非常放送、連絡手段、消化器の使用方法などの訓練を行っている。</p>		<p>夜間想定訓練を組み入れ、地域との連携に関しては運営者を含めての話し合いで協議を重ねていきたい。</p>

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>要望に近づけた支援や自由な暮らしの側面にはリスクも伴うことも考えられ個々に起こり得るリスクに対しては家族へ分かりやすく説明し協力と理解を求めている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎日、定時にバイタルチェックを行い健康状態を観察している。容態変化時には密な観察と管理者への報告を行い情報共有し早期対応に努めている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>毎食の服薬は一人一人のレベルに添った方法で確実な確認作業を行っている。お薬手帳を個別に保管し、ケース記録や連絡帳へも薬の内容変更や医師の指示を記載している。職員は各自で疑問をもち本やインターネットで調べている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>乳製品を症状に合わせて提供しているが下剤に頼る傾向が強い。</p>		<p>運動や飲食物の工夫などの予防方法を積極的に取り入れていきたい。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後の歯磨きの声かけを利用者のレベルに応じて行い、支援の必要な方へは能力に応じて手伝い、就寝前は義歯を水につけ保管している。義歯の不具合があれば早めに歯科受診し、対応している。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食習慣の情報を家族から頂いたり本人の好みも組み込めるよう献立作成している。体調不良時や残食が目立つ際には毎回の食事、水分量を観察し記録に残し、情報を共有することで対応を検討している。</p>		<p>栄養士の食事指導体制を整え、バランスの取れた食事提供に努めたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎年、インフルエンザ予防接種は家族、本人同意のうえで実施している。感染症対策マニュアルを看護師中心で作成し、職員一人一人がファイルを保管している。職員の体調自己管理も呼びかけている。		マニュアルを増やし充実させたい。手指消毒や手洗い、うがい、トイレのペーパータオル使用等、日常から気をつけている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所用品については一日一回ハイター消毒行い、布巾類はこまめに洗濯、交換している。余り食材は翌日には使用するなど保存期間に意識している。野菜保存も季節に応じて管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	盆栽やプランター、花壇など近隣の方も鑑賞できるように玄関周辺に置いてある。玄関先は花を活けたり、畳を置いて休息がとれるようにし、来客への気さくな対応を心がけている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を活けたり、菖蒲湯、ゆず湯など季節を感じてもらえるよう工夫し、いつでも好きな時に飲めるようティーセットを設置している。日常生活で聞こえる音、匂いをそのまま生かし会話にも意識的に取り入れている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファースペースやコタツスペース、喫煙スペースなど気の合う同士が集い憩える空間がある。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みの用品を置いたり、昔の写真や家族の写真を飾るなど個々にあった居室作りを工夫している。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>午前、午後、居室の換気を行っている。外気温に応じて室内の温度調整を行っている。利用者の衣服調整にも配慮している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>必要な場所にてすりを設置し、障害物を置かないなど安全な環境作りに努めている。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>ケアプランを支援に活かし対応している。混乱や失敗を防ぐ為の職員同士の話し合いを多く持ち、対応の工夫を検討、実施している。</p>		
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>花壇に花摘みに出かけたり、屋上で食事をしたり景色を眺めたり、畑仕事や洗濯物を干したりと日常的に楽しみながら活かされている。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	その他()
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	その他()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない	その他()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	その他()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	その他()
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない	その他()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症高齢者と介護職員との関係性ではなく、互いに人と人としての頼り頼られる関係作りに努めております。

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

.サービスの成果に関する項目

【記入方法】

複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに管理者が介護職員と協議の上記入してください。

次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。

- 項目番号23 初期に築く本人との信頼関係
- 項目番号24 初期に築く家族との信頼関係
- 項目番号25 初期対応の見極めと支援
- 項目番号26 馴染みながらのサービス利用
- 項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援

次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。

- 項目番号53 身だしなみやおしゃれの支援
- 項目番号59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援
- 項目番号60 お金の所持や使うことの支援
- 項目番号61 日常的な外出支援
- 項目番号62 普段行けない場所への外出支援
- 項目番号63 電話や手紙の支援
- 項目番号64 家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

管理者 = 指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。

職員 = 「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名	グループホーム こころのさと
(ユニット名)	2階
記入者(管理者) 氏名	鈴木 美和
評価完了日	平成20年3月27日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>質の確保、サービスの向上への指針として職員全体で話し合い理念を掲げているが地域との関係性という点に対して事業所の意識は薄い。</p>	<p>全体ミーティングによる職員間での意見交換の際には「地域の中におけるグループホームの役割とは」をテーマに話し合いや再確認を繰り返すことで意識を高めていきたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>専門職としてサービスを提供するにあたり根っことなる部分であるという事の認識は共有できている。振り返り際には自己の行動に理念を照らし合わせ反省材料となり活かされている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>見学の際には、理念にも注目して頂けるよう説明の中に組み込みグループホームの特性や役割への理解をより深められるよう配慮して行っている。</p>	<p>パンフレットへ組み込みたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>あいさつをさりげなく交わす自然な交流は年々深まってきているかと思われる。2階への立ち寄りが気軽になれるような試みや工夫には欠けている。</p>	<p>敬老会などの地域参加型のイベントを通し近隣の方との触れ合いを積み重ねホームの存在を地域に深めていきたい。交流が発展してきたらお茶会など催していきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>敬老会でのバザーや模擬店、ボランティアの受け入れ、地域公開活動などの機会を定期的に設けている。</p>	<p>ホームから地域に出ていく機会がない為、事業所が積極的に地域へ出て、地域を知る機会を設けていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	小学生の社会見学、高校生の就業体験、ヘルパーの養成実習など積極的に受け入れている。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	自己評価、外部評価に対する意義への理解は年々深まってきている。自己評価は職員一人一人が行い外部評価後のミーティングにおいて意見交換を行っている。	評価や検討した内容の振り返りが定着していない為、継続的に検討会を行っていきたい。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	月1回の全体ミーティングや各ユニット毎のミーティングの際に意見交換や情報の共有に努めている。メンバーからは率直な意見を頂き参考とさせて頂いている。	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	サービス提供にあたっての疑問点や不安材料は、どんどん質問し一緒に考えて頂きグループホームゆえに抱える問題提起を行っている。	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	必要な方へは支援行ったケースがあるが症例が少なく、職員全体の理解を低い。	勉強会を開催して理解を深めていきたい。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	虐待防止を念頭に置き虐待のないケア提供に努めている。	日々進歩する虐待防止への定義に対して理解を深めていくために研修参加の機会を設け勉強会を開催したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書に基づき不安点や疑問点を確認しながら十分な時間をとりながら行っている。ホームでの限界性も提示しながら意見を頂いている。</p>	<p>看取りの指針がやや曖昧であり家族、本人の安心できる暮らし作りを強化していきたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>喜怒哀楽のある暮らしを理念に掲げており、利用者、職員どちらかの意見が一方通行にならないよう「私はこう思うがあなたはどうですか?」と共に考える意見交換の場は多い。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>金銭管理は毎月の請求明細書に出納表を同封し確認の印を頂いている。面会時には近状報告を行い家族の近状も伺う機会を設けている。遠方のご家族には写真入りの葉書を送り近状報告を行っている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族要望に対して職員間での情報共有に努めている。</p>	<p>家族の満足感を図るための関わりを継続的かつ積極的に取組んでいきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>個別の意見を聞く機会を定期的に設けていない。</p>	<p>定期的な話し合いの機会を設け課題を共有し目標を明確にしていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況に応じた体制で行っているが、どこかにしわ寄せが起こるような余裕のない現状にある。</p>	<p>介護離れの波が色濃い社会的な問題に対して魅力のある現場となるための土台作りを、運営者を始めとして話し合い方針を固めていく必要があると思われる。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的には各ユニットの職員は固定としている。人員不足による応援職員の出入りにより利用者が戸惑いを感じる部分に関しては職員間での配慮を心掛けている。</p>	<p>離職率の高かった本年度を振り返り課題点と感じられる事に関して継続的な対応策を検討していきたい。新人職員の教育システムも確立していきたい。</p>
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>グループホーム連絡協議会に加入し、定期的に研修会に参加し報告会を行っている。職員へ配布する資料作成も報告職員が主体的に行っている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>交流は研修会が主である。</p>	<p>当施設において様々な施設の職員が会して意見交換や勉強会を定期的開催していく計画があり積極的な参加や自主性を促していきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休憩は利用者と離れた場所を確保している。人員不足の問題や認知症高齢者との関わり、職場内での人間関係などストレスは消化するよりも募るほうが多いかと思われる。</p>	<p>何をストレスに感じ、何に不安を抱くのかは個々様々である為、それぞれの心の余裕を持つために今何が求められるのかを常に考え、話し合いを持つ機会作りから環境整備していきたい。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>個人個人が自己のスキルアップの為に努力することで明確な形になり報われ、充実感を感じ得られるような職場環境ではない為、マンネリ化も生じやすい。資格取得へのメリットが職場環境の側面からも浮き彫りになるような職員へのバックアップ体制は必要と思われる。</p>	<p>個人の能力、勤務態度、取組への姿勢などを把握する体制を作るなど『やる気』へつながるような職場環境作りを運営者へ投げかけ協議を重ねていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>喜怒哀楽を自由に表現できる関わりや環境作りを大切にしている。利用者が活躍する場面作りの為に周囲との場の雰囲気なども整え、日々より良い環境作りに努めている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	特にターミナル期においては、ご家族の意向やお互いの限界の部分を確認しホームとして今出来ること難しいことも率直にお伝えしている。		家族、ホーム、両者の意見のやりとりも大切であるが一番大切であるのは利用者本人の思いであるということを伝えている。ご家族の心情や家庭的な事情に照らし合わせ最後まで本人の思いがくみ取れるような支援体制を整えていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出や外泊はご家族の不安が軽減されるよう生活の様子や対応のアドバイスなどを文書にして渡している。認知症への理解を深めて頂くことで家族の精神的な負担が軽減されるよう面会時などは近状報告と共に病気に対しての知識を提供している。		行事参加が気軽になり家族も充実できる機会を増やしていきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人、親戚の方などが本人を訪ねて来所されている。行きつけの美容室のある方は家族との外食を兼ねて出かけている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	午前、午後のお茶の時間は利用者、職員が共にゆったりとひとときを過ごすように努めている。得意分野を發揮したり協力して作業することで互いを尊敬したり認めあえるような機会作りに配慮している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	取り組みは特にない。		必要なケースには実践できるよう検討したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で本人の言葉や表情などから探ったり、さりげなく尋ねたりしている。本人の要望が表出されない場合は家族からの情報を参考にしている。</p>	<p>本人が家族に対しての意向があっても何らかの事情にて思うようにならないことも多く、本人が納得をして生活できるような働きかけをご家族との連携をより深めて行っていきたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>センター方式による生活歴シートを活用している。シートの利用目的を説明したうえで直接、ご家族に記入して頂くなど協力を求めている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>出来ること、出来ないことに対しての見極めについて職員間で情報を共有している。ライフスタイルに合わせて見守りを重視し、出来る部分は積極的に声をかけている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の思いを優先し、ご家族の要望を添えたプランを立案し実行している。ご家族の要望を継続的にくみ取れていないケースもある。</p>	<p>ご家族の心情や状況の変化なども定期的に話し合うように努めていきたい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>本人の要望を最優先している。職員間での意見交換や見直しを行っている。</p>	<p>見直しの機会には家族の意見や要望を確認しプランに反映させていきたい。介護計画については勉強会を重ねていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の暮らしぶりや言葉、表情など、こまかな個別記録を行っており状態像は掴みやすくなっている。工夫や気づきは申し送りや連絡帳など活用して情報の共有に努めている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)</p>			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>2か月に一度のペースで老人福祉相談員の方々がレク活動をボランティアで行われており、学校の社会見学や体験学習も積極的に受け入れている。</p>		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>要望に応じて訪問の理容サービスがある。2週に一度のペースでヤクルト屋さんの来所があり利用者の方々が選り購入されている。</p>		<p>運営推進会議において包括支援センターのケアマネージャーよりアドバイス頂き支援の参考としている。</p>
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>運営推進会議に包括支援センターのケアマネージャーが参加されており周辺情報や課題対策など意見交換を深められるようになった。</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医院への定期的通院介助を行っている。本人の症状や要望に添い、必要な医療機関の選択を行っている。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>物忘れ外来の通院は必要性を見極めて判断している。病気への知識や対応のアドバイスを頂きケアに活かしている。</p>		
45				
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時は認知症により起こり得るリスクも情報提供し、入院のダメージが少しでも和らぐよう定期的な面会や、家族、医療関係者との情報交換に努めている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居契約時に看取りの指針によりホームの方向性を提示している。</p>		<p>往診体制が整っておらず、ホーム内でどこまでの支援が可能であるかの不安は大きい。医療機関との連携強化を図りたい。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>本人の思いを家族に代弁することで、本人、家族、介護員の気持ちや方向性が出来るだけ統一できるように関わりに努めている。</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入居後のユニット間での移動や部屋替えは行っていない。環境変化による影響に配慮している。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>				
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>さりげない言葉かけや、その時々の利用者の気分の波や性格面を把握した上で対応行っているが親しさのあまりの慣れ合いが生じやすい。</p>		<p>馴染みの関係の中にも利用者主体であることや言葉かけへの配慮に対しての意識向上を職員間での話し合いでは継続的に振り返りや確認を行っていききたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>衣服の選択は職員の助言にて着たいものを選んで頂いたり、買い物で食品を選んだりヘアカラーの色と一緒に選んだり・・・と何気なく自己決定できる場面を大切にしている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者一人一人のライフスタイルを把握し、過度な干渉のない気ままな生活を守っている。要望には出来る限り添った対応を心掛けているが、人員や業務上の都合が優先され即対応に至らないこともある。</p>		<p>利用者の要望が重なったり即対応が困難な場合においては、その旨をきちんと伝え納得のいくような対応には十分配慮している。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 (53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている (認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>洋服を買いに出かけたり女性利用者の居室には化粧用具を目のつく場所に置いたり自由におしゃれを楽しめる環境にも配慮している。職員が眉を整えたりヘアカラーを選び毛染めも行っている。</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>下ごしらえや調理、後片付けなど食事の一連の流れは各利用者の力量や意欲を把握したうえで積極的に声をかけ共に行っている。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>体重コントロールや医師からの制限の必要性がない場合は希望に添って提供している。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>時間、回数、習慣を把握し、情報共有に努めている。パットや紙パンツが必要となれば数種類のサンプルにて本人の様子観察や感想を聞きながら協議を繰り返し決定している。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>本人の希望を叶える支援を行っている。仲の良い利用者同士で入浴を楽しまれたり、利用者間の触れ合いの時間にも努めている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>夜間の睡眠が十分にとれるように日中の生活リズムの調整に努めている。寝付けなときは温かい飲み物を提供したり照明にも配慮している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>掃除、洗濯、食事作りなど生活歴を活かした役割があり、縫物や物造りなど一緒に行っている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している(認知症対応型共同生活介護)	お金や財布を所持することが精神的な安定をもたらす方には家族同意のもと小額を所持されている。ヤクルト屋さん来所の際には自分の財布からお金を出して購入されている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	通院をきっかけに帰り道に食事や買い物をしたり個別対応行っているも、人員や他者通院などにて日常的には行えていない。		楽しい時間を共有できる時間を積極的に設けていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	誕生日に温泉に出かけたり季節毎の行事には全員参加されている。		外出の不安や戸惑いをなくすためにも早めに計画をたて人員調整をしたりゆったりと外出支援ができるよう努めていきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	気兼ねから電話を遠慮される方には職員からさりげなく声をかけている。遠方の家族には職員が代筆して手紙を送っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している(認知症対応型共同生活介護)	遠方の家族が居室に泊まれるようなシステムがある。訪問者にはお茶を提供し、さりげなく近状報告を行い難聴の方や対応が難しい方には交流の橋渡しをおこなっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解して取り組んでいる。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者それぞれの行動パターンやライフスタイルを把握しており見守りを徹底することで施錠を行わないケアを提供している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者と同じ空間で事務作業を行っている。夜間は定時の巡視以外にも動きが見えやすい場所にてトイレなどの見守りを行い安全面に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の要望や必要性に応じて保管場所を決めたり、のれんで目隠しをするなどの生活感を失わないような工夫を行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットの記載にて共有意識を図っている。危険性の高い要因へのリスクを共有し支援内容を検討している。		とっさの時でも慌てずに対応できるようシュミレーションを兼ねて勉強会を重ねていきたい。
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て勉強会を実施したが、いざというときへの不安は強い。		継続して勉強会をしていきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難訓練、非常放送、連絡手段、消化器の使用方法などの訓練を行っている。		夜間想定訓練を組み入れ、地域との連携に関しては運営者を含めての話し合いで協議を重ねていきたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて 家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大 切にした対応策を話し合っている	要望に近づけた支援や自由な暮らしの側面にはリ スクも伴うことも考えられ個々に起こり得るリス クに対しては家族へ分かりやすく説明し協力と理 解を求めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に 努め、気付いた際には速やかに情報を共有 し、対応に結び付けている	毎日、定時にバイタルチェックを行い健康状態を観 察している。容態変化時には密な観察と管理者へ の報告を行い情報共有し早期対応に努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量について理解し ており、服薬の支援と症状の変化の確認に 努めている	毎食の服薬は一人一人のレベルに添った方法で確 実な確認作業を行っている。お薬手帳を個別に保 管し、ケース記録や連絡帳へも薬の内容変更や医 師の指示を記載している。職員は各自で疑問をも てば本やインターネットで調べている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解 し、予防と対応のための飲食物の工夫や身 体を動かさず働きかけ等に取り組んでいる	乳製品を症状に合わせて提供しているが下剤に頼 る傾向が強い。		運動や飲食物の工夫などの予防方法を積極的に取 り入れていきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎 食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた 支援をしている	就寝前には個別に声かけや見守りにて支援してい る。夜間は義歯を水につけ保管している。義歯の 不具合があれば早めに歯科受診対応行っている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの状 態や力、習慣に応じた支援をしている	食習慣の情報を家族から頂いたり本人の好みも 組み込めるよう献立作成している。体調不良時や 残食が目立つ際には毎回の食事、水分量を観察し 記録に残し、情報を共有することで対応を検討し ている。		栄養士の食事指導体制を整え、バランスの取れた 食事提供に努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎年、インフルエンザ予防接種は家族、本人同意のうえで実施している。感染症対策マニュアルを看護師中心で作成し、職員一人一人がファイルを保管している。職員の体調自己管理も呼びかけている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所用品については一日一回ハイター消毒行い、布巾類はこまめに洗濯、交換している。余り食材は翌日には使用するなど保存期間に意識している。野菜保存も季節に応じて管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	盆栽やプランター、花壇など近隣の方も鑑賞できるように玄関周辺に置いてある。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の物や、写真、手作りの座布団などさりげなく置いてある。飾りすぎること逆で逆に施設的にならないよう工夫している。		浴室が狭いので、こまめの整理行い工夫をこらし動きやすい空間作りをしたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者が集い、気ままにくつろげるソファースペースがあり憩いの場となっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みの用品を置いたり、昔の写真や家族の写真を飾るなど個々にあった居室作りを工夫している。</p>	
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>午前、午後、居室の換気を行っている。外気温に応じて室内の温度調整を行っている。利用者の衣服調整にも配慮している。</p>	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>必要な場所にてすりを設置し、障害物を置かないなど安全な環境作りに努めている。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>ケアプランを支援に活かし対応している。利用者が一番理解しやすい方法は何かを追及し職員間で話し合い戸惑いが解消できる工夫に努めている。</p>	
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>屋上では食事したり、ベランダで洗濯物を干したり、ひなたぼっこしたりと活用している。</p>	

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	その他()
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	その他()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない	その他()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	その他()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 必ず増えている あまり増えていない 全くいない	その他()
98	職員は、生き活きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない	その他()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症高齢者と介護職員との関係性ではなく、互いに人と人としての頼り頼られる関係作りに努めております。